

令和3年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	54	学校名	榛原高等学校（定時制）	記載者	鈴木 安雄
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価
ア	基本的な生活習慣づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○登校時の挨拶を毎日実施している。 ○遅刻・欠席・早退が1日0.2人以下 ○月毎に規範意識目標を設定し遵守している。 ○健康管理表を毎日記入している。 ○治癒勧告時の保護者連絡の徹底及び再受診率60%以上 ○朝食摂取率80% ○給食残率が前年度より減少 	B	B
イ	基礎学力の定着と主体的な学びの実践	<ul style="list-style-type: none"> ○学力テスト合格者70%以上 ○授業満足度80%以上 ○年間読書冊数5以上 	A	A
ウ	個に応じた進路指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導満足度80%以上 ○進路実現100% ○進路実現に向けた保護者面談を定期的に行っている。 	B	B
エ	安心安全な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○外部関係機関と必要な連携をしている。 ○生徒情報交換週1回実施 ○いじめ、体罰、交通事故0件 ○ホームページの更新年30回以上、定時制通信発行5回以上 	A	A
オ	教員研修による授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ○相互の授業参観年2回以上 ○研修の内容・成果を共有している。 ○校外研修年1回以上 	A	A
カ	今日的課題への積極的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人生徒保護者との面談を定期的に行っている。 ○教員の業務負担への理解度80%以上 ○学校運営協議会委員と情報交換会を実施している。 	B	B

	意見
ア	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事と学校の両立、そして規則正しい生活習慣を維持するために学校がものすごく丁寧に指導をしていることがよくわかった。 ・基本的な生活習慣の構築の陰には、定時制課程の先生方の生徒一人一人を大事にする目配り、気配りがあると思う。 ・仕事と学校の両立の難しさや生徒が抱える諸事情など、高校が掲げる成果目標を達成するためには、生徒一人ひとりが抱える課題・事情も多いと思います。支援の複雑さや大変さを感じられているとは思いますが、きめ細かな支援・指導を引き続きお願いしたい。
イ	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と主体的な学びを目指して先生方は授業を成立させようと細部（「声の大きさ」「話し方」「説明内容」「板書」等々）にわたり配慮していることがわかった。そして、これら評価項目に対する生徒の反応も確かなものがあり、生徒は安心して日々の授業を受けていることがわかった。 ・基礎的な学力を向上させ、自主学習のモチベーションを高めるためには、常に頻繁な日本語サポート（標準国語レッスンに追加）が必要である。 ・外国人生徒が自分の進歩（成長）を自己評価できるとやる気も高まる。 ・学力テストの合格者が70%と目標を達成することができ、また、生徒の授業満足度も高かったことは素晴らしい。特に、外国籍の生徒は言語の問題などから勉学に集中できないこともあるが、粘り強い指導が成果に結びついたのでないか。
ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制課程は、少人数であることから生徒の特性に合った進路指導が必須となる。よって学級担任を中心に日頃のコミュニケーション（親との対応も含む）における信頼関係の構築が有効となるため、1年生の時から個別指導の積み上げが大切である。 ・会社の求人確保も大切である。卒業生を中心に日頃から学校は求人の確保も意識していかなければならない。 ・早くから生徒や保護者のための進路指導を実施し、希望する進路決定に繋がったのではないか。
エ	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制課程は、学年内にも年齢差があったり、多国籍や家庭環境も複雑な生徒がいたり様々な事情を抱えている。そのような環境の中で高校に通うことの意義や学ぶ楽しさ、仲間との絆を考えて励ましていく姿こそ大切な生徒指導であり、生徒にとって安心・安全な学校づくりの場面であると強く思う。 ・情報交換会を通して生徒一人ひとりの状況を全教員が共通理解し、支援を考えていただける体制が整っているだけで、様々な事情を抱えた生徒にとっては、とても心強い。
オ	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々に学力差があり、授業進度はかなり難しいと予想がつく。そのような現状でも、生徒にとって「わかる」「できる」授業を成立させることが大事なポイントだと思う。もちろん学習指導要領に則った授業は進めながらも、生徒が納得のいく授業を成立させることこそ大切な使命である。 ・全日制課程にはない生徒による先生の授業評価スタイルはとても有効な指標だと思う。 ・教師自らが教科のスペシャリストとして研修会等に参加し、授業力を磨くことも継続して行ってほしい。 ・相互の授業参観や校内外研修など、授業力向上のための目標達成ができたことは良かった。
カ	<ul style="list-style-type: none"> ・所属の生徒に年々外国籍の生徒が増えていると伺った。このことこそ今日的な課題であり、研修や教職員同士の連携等、生徒のために協働することが大切になってくる。 ・本年度教職員の異動が多かったということで、共通認識や協働意識に力が注がれたことと思う。大所帯ではないので「すべては生徒のために！」を合言葉として努力を重ねて行ってほしい。 ・外国人生徒保護者が、生徒（我が子）をサポートするのに、日本の教育システムについて十分理解しているか確認が必要である。 ・今回の多くの資料から、生徒への支援・指導に、熱心に取り組まれていることがわかった。

様式第5号